

平成28年度に建設工事で発生した事故事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

道路改良工事の舗装路盤鋤取り作業中、バックホウのアームを上げた際、道路を上空を横架していた通信線の吊ワイヤーに接触、損傷させた。

【事故原因】

・架空線対策が実施されていなかった

【改善対策】

- ・防護カバー、位置表示等、保安措置の実施
- ・安全教育の徹底
- ・監視員の配置



【分類】舗装工・BH掘削

【被害状況】通信線吊ワイヤー損傷（吊ワイヤー弛み 通信障害なし）

平成29年度に建設工事で発生した事故事例（建設機械による事故）

【事故概要】

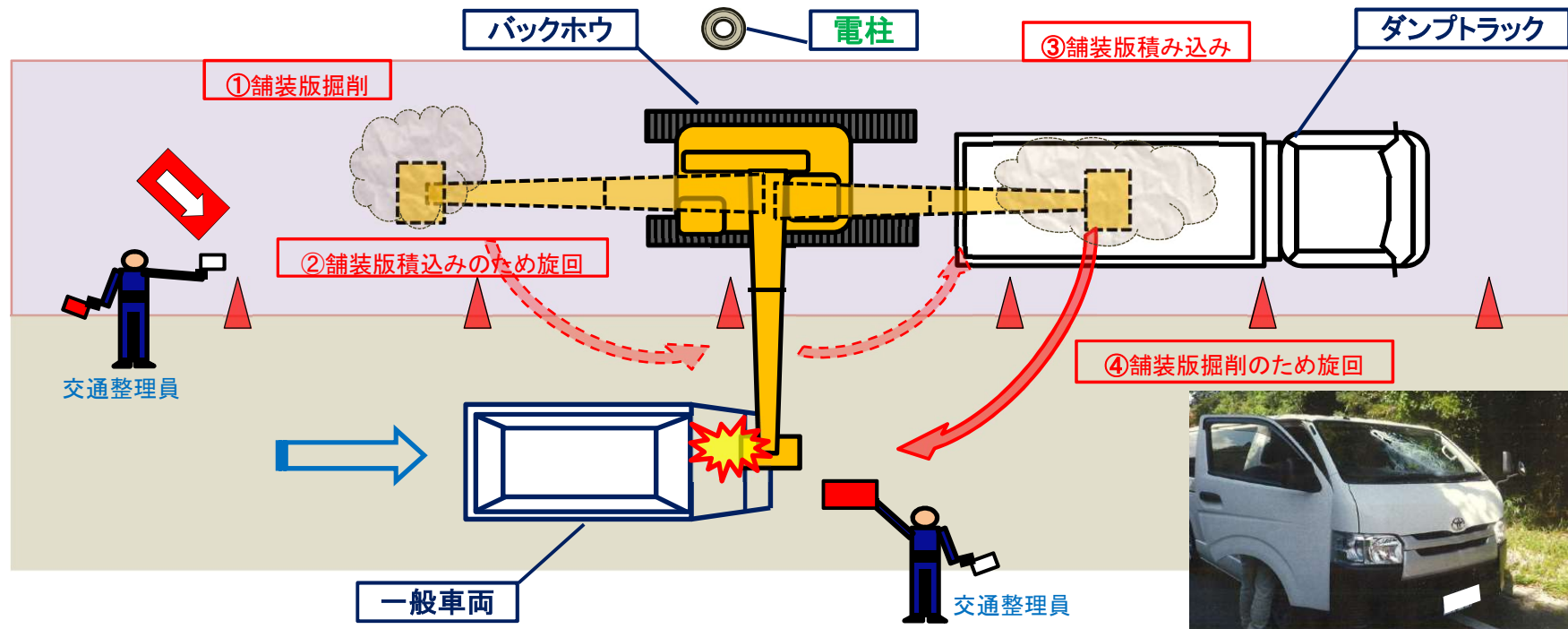
舗装補修工事において、バックホウを使用して舗装版を破碎した廃材をダンプトラックに積込む作業中、バックホウを旋回させる際に、路肩側に電柱があったため、やむを得ず車線側に旋回したところ、走行車線を徐行していた一般通行車両にバックホウのバケットが接触し、フロントガラスを損傷させた。

【事故原因】

- ・通行車線にはみ出すことなく片側通行規制で施工するには、小旋回バックホウを使うか、ダンプトラックをバックホウ前方かつ同一方向に配置して、バックホウが旋回しない施工方法を選択すべきであったところ、小旋回バックホウの手配ができなかったため、安易に通常のバックホウで車道側へ旋回する方法を選択した
- ・現場作業を監視・把握し、前後の交通整理員と一般車両の通行を調整すべき役割を交通整理員に任せていた
- ・オペレーター自身による一般車両の目視確認不足

【改善対策】

- ・ダンプトラックをバックホウの前方かつ同一方向に配置し、旋回による事故のリスクをなくす
- ・やむを得ず、バックホウを車道側に旋回する方法を選択した場合は、一般車両の通行を制限する
- ・現場を熟知した監視員を別途配置し、各作業の指示をすることで、情報の一本化を図り、現場の共通認識を徹底させる
- ・交通誘導員は監視員との連絡を密にして交通処理にあたる
- ・一般車両通行時には、作業を一時中止する
- ・詳細な作業手順書を作成し、各作業員に徹底させる



【分類】 舗装工・BH掘削

【被害状況】 通行車両1台損傷

平成30年度に建設工事で発生した事故事例（埋設物損傷事故）

【事故概要】

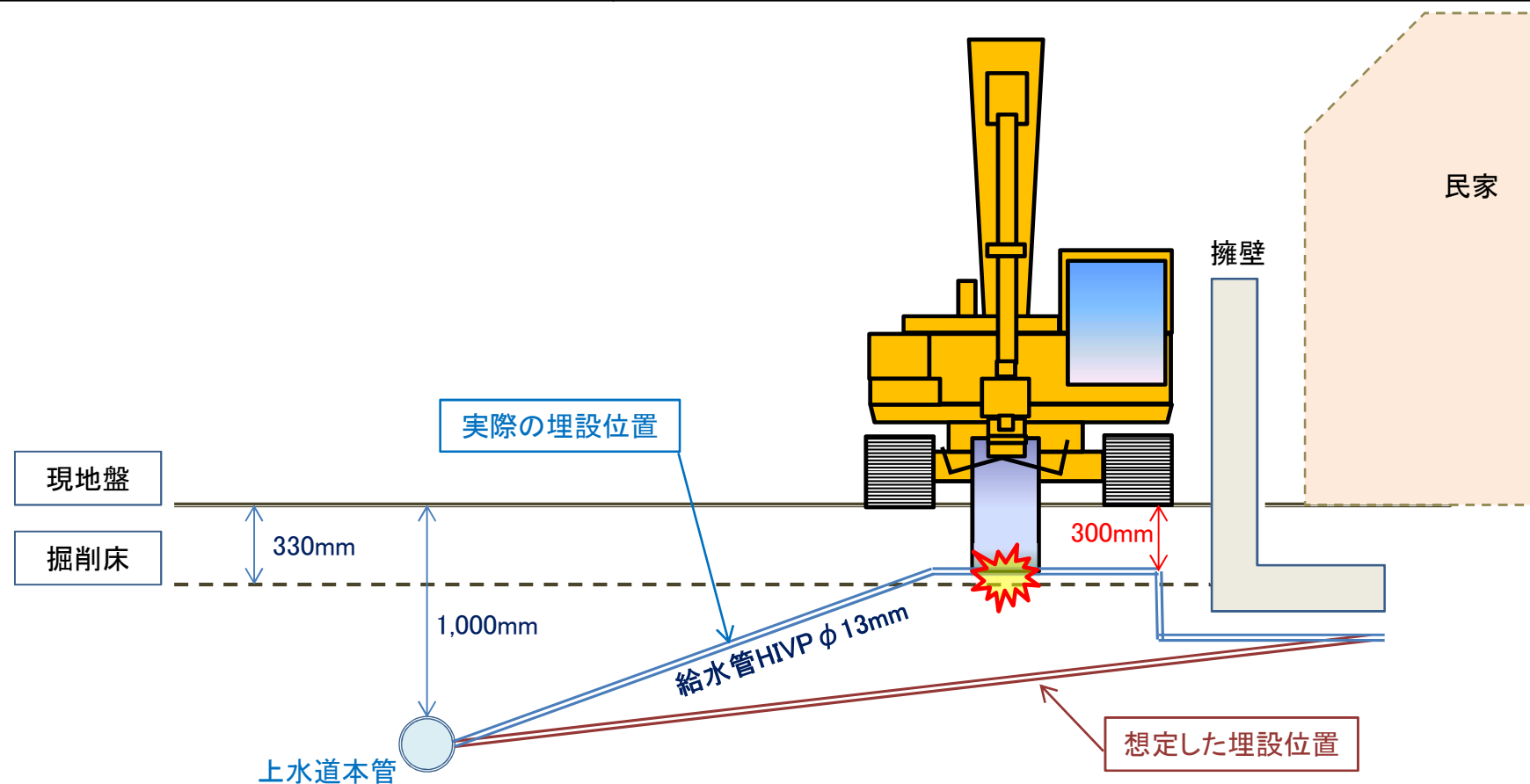
道路改良工事において舗装取り壊しのため、バックホウで道路掘削中、地上から30cmの位置に埋設されていた上水道管（給水管φ13mm）を破損させた。

【事故原因】

・給水管の位置は影響範囲外であると判断し、試掘を行わずバックホウで掘削を行った

【改善対策】

・埋設管の意見照会時、発注者、受注者、埋設管管理者の3者で確認を行う
 ・埋設管の位置が不明な場合は、埋設管管理者の立会いのもと試掘を行う



【分類】 舗装工、BH掘削

【被害状況】 上水道管（給水管φ13mm）（断水：1軒、約1時間45分間）

令和3年度に建設工事で発生した事故事例（地下埋設物事故）

【事故概要】

路盤工施工のため路面下をバックホウで掘削していたところ、埋設されている水道管の引込管をバケットで引っ掛けたため、引込管が破損し、接続している水道本管の一部が破損し断水したものの。

【事故原因】

- ・現場に水道管が埋設されていることを認識していたが、水道管理者への事前確認が不十分であった。
- ・事前の試掘等による埋設管の位置、深さ等の確認を行わないまま掘削作業を行ったこと。

【改善対策】

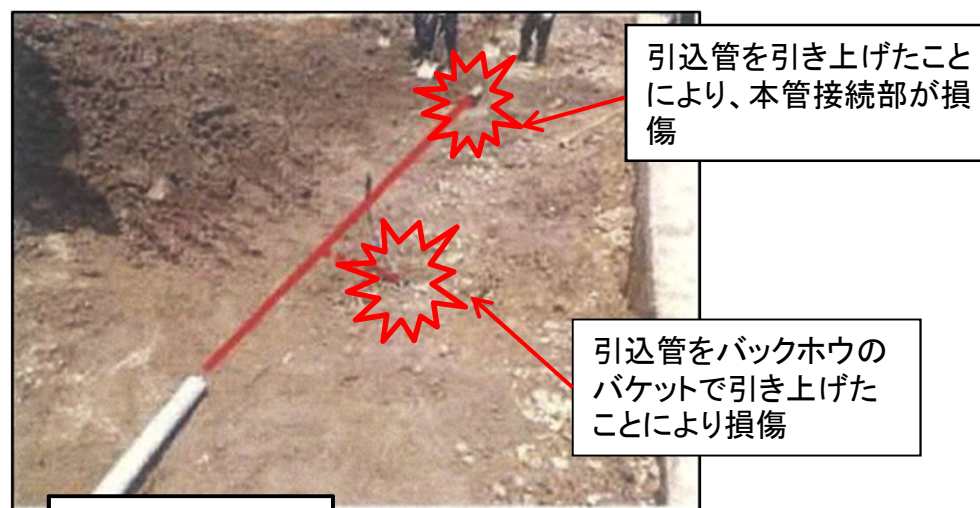
- ・上水道管理者に対して、必ず水道管位置がわかる管理図面資料を入手する。
- ・埋設管について、上水管理者立会のもと現地試掘を行い、位置、深さ等を事前に確認することを徹底する。
- ・試掘作業については、「地下埋設物の事故防止マニュアル」に基づき慎重に掘削作業を行う。

事故前現場状況写真



水道本管 φ75

事故現場状況図2



引込管を引き上げたことにより、本管接続部が損傷

引込管をバックホウのバケットで引き上げたことにより損傷

水道本管 φ75

【分類】 舗装工、BH掘削

【被害状況】 公衆災害 水道管 φ75 損傷 断水(2時間10分) 39軒

令和3年度に建設工事で発生した事故事例（地下埋設物事故）

【事故概要】

側溝取替工事のためバックホウで床掘をしていたところ、埋設されている水道管の分岐バルブをバケットで引っ掛け破損したものを。

【事故原因】

・現場に水道管が埋設されており、事前の試掘で位置、深さを確認していたが、掘削時に人力掘削を併用するなど慎重に作業を行う必要があったにもかかわらず、バックホウでの掘削を進めたため事故となった。

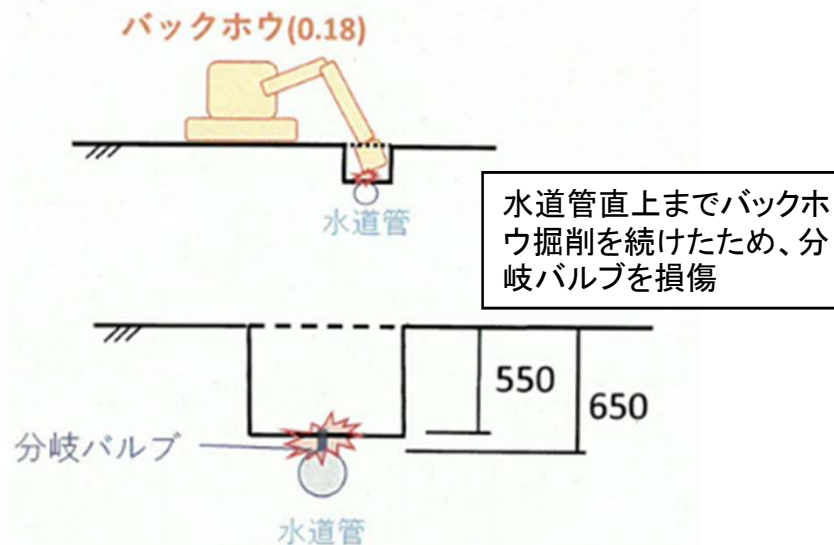
【改善対策】

・埋設管理者から埋設位置、規格、構造及び埋設年次を確認し、不明確の場合には管理者立ち合いのもと埋設管との位置関係を確認しながら人力作業を併用し、慎重に施工を進める。

事故直後の状況写真



事故現場状況図



【分類】 舗装工、BH掘削

【被害状況】 公衆災害 水道管φ75 損傷 断水(2時間10分) 39軒